

工場排水試験方法

JIS K 0102 : 2016

平成 28 年 3 月 22 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

日本工業標準調査会標準第一部会 化学・環境技術専門委員会 構成表

		氏	名		所属
(委員会長)	田	中	龍	彦	東京理科大学
(委員)	今	井		勇	一般社団法人日本ゴム工業会
	大	石	奈酒	非子	一般財団法人日本消費者協会
	大	石	美茶	条子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	大	野	香	代	一般社団法人産業環境管理協会
	小	Ш		修	一般社団法人日本塗料工業会
	嘉	藤		鋭	独立行政法人住宅金融支援機構
	倉	ᇤ	秀	夫	公益社団法人自動車技術会
	小	森	亨	_	一般社団法人日本分析機器工業会
	斉	藤		良	日本プラスチック工業連盟
	四角	自目	和	広	一般財団法人化学物質評価研究機構
	高	津	章	子	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	田	和	健	次	石油連盟
	中	島	眞	理	株式会社ブリヂストン
	中	村		優	地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター
	野	中	玲	子	一般社団法人日本化学工業協会
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	保	倉	明	子	東京電機大学
	松	永	直	樹	拓殖大学
	森	Ш	淳	子	東京工業大学
	山	崎	初	美	主婦連合会

主務大臣:経済産業大臣制定:昭和 39.2.1 改正:平成 28.3.22

官 報 公 示:平成 28.3.22

原案作成協力者:一般社団法人産業環境管理協会

(〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 2-2-1 三井住友銀行神田駅前ビル TEL 03-5209-7707)

審 議 部 会:日本工業標準調査会 標準第一部会(部会長 酒井 信介)

審議専門委員会:化学・環境技術専門委員会(委員会長 田中 龍彦)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成協力者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課(〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1 E-mail:jisc@meti.go.jp 又は FAX 03-3580-8625)にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査 会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

まえがき

この規格は、工業標準化法に基づき、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本 工業規格である。これによって、JIS K 0102:2013 は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が,特許権,出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意 を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は,このような特許権,出願公開後の特許出願及び実 用新案権に関わる確認について,責任はもたない。 目 次

	ページ
1.	適用範囲
2.	共通事項
3.	試料 ······4
3.1	試料の採取,試料容器,採水器及び採取操作4
3.2	試料の取扱い
3.3	試料の保存処理
4.	流量6
5.	試料の前処理
5.1	塩酸又は硝酸酸性で煮沸
5.2	塩酸又は硝酸による分解
5.3	硝酸と過塩素酸とによる分解
5.4	硝酸と硫酸とによる分解
5.5	フレーム原子吸光法,電気加熱原子吸光法,ICP 発光分光分析法及び ICP 質量分析法を
適F	月する場合の前処理
6.	結果の表示
7.	温度
7.1	気温
7.2	水温
8.	外観
9.	透視度
10.	臭気及び臭気強度 (TON) 12
10.1	1 臭気
10.2	2 臭気強度(TON)
11.	色度
11.1	刺激値及び色度座標を用いる方法
11.2	2 三波長を用いる方法
12.	pH
12.1	Ⅰ ガラス電極法 ····································
13.	電気伝導率
14.	懸濁物質及び蒸発残留物
14.1	Ⅰ 懸濁物質····································
14.2	2 全蒸発残留物
14.3	3 溶解性蒸発残留物 ····································
14.4	Ⅰ 強熱残留物 ····································
14.5	5 強熱減量

K 0102:2016 目次

	<u>~</u>	ージ
15.	酸消費量	33
15.1	酸消費量(pH4.8)	33
15.2	酸消費量 (pH8.3) ······	34
16.	アルカリ消費量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
16.1	アルカリ消費量(pH8.3)	35
16.2	アルカリ消費量(pH4.8)	37
16.3	アルカリ消費量(遊離酸)	37
17.	100 ℃における過マンガン酸カリウムによる酸素消費量 (COD _{Mn})	38
18.	欠番	41
19.	アルカリ性過マンガン酸カリウムによる酸素消費量(COD _{OH})	41
20.	ニクロム酸カリウムによる酸素消費量(COD _{Cr})	43
20.1	滴定法による酸素消費量(COD _{Cr})	43
20.2	蓋付き試験管を用いた吸光光度法による COD _{Cr} 測定法 ······	45
21.	生物化学的酸素消費量(BOD) ····································	47
22.	有機体炭素(TOC) ····································	53
22.1	燃焼酸化-赤外線式 TOC 分析法	54
22.2	燃焼酸化-赤外線式 TOC 自動計測法	57
23.	全酸素消費量(TOD)	57
24.	へキサン抽出物質	59
24.1	武料採取	59
24.2	抽出法	61
24.3	抽出容器による抽出法	63
24.4	捕集濃縮・抽出法	64
25.	欠番	65
26.	欠番	66
27.	欠番	66
28.	フェノール類	66
28.1	フェノール類・・・・・	66
28.2	<i>p</i> -クレゾール類 ······	70
29.	~ 欠番 ······	72
29.1	欠番	- 72
30.	界面活性剤	72
30.1	陰イオン界面活性剤 ·······	- 72
30.2	非イオン界面活性剤	· 78
31.	農薬	82
31.1	 有機りん農薬······	
	ペンタクロロフェノール	
	エジフェンホス (EDDP)	
	溶存酸素	

	ページ
32.1	よう素滴定法····································
32.2	ミラー変法·······94
32.3	隔膜電極法
32.4	光学式センサ法····································
33.	残留塩素
33.1	<i>o</i> -トリジン比色法
33.2	ジエチル <i>-p</i> -フェニレンジアンモニウム(DPD)比色法
33.3	よう素滴定法····································
33.4	ジエチル- <i>p</i> -フェニレンジアンモニウム(DPD)吸光光度法
34.	ふっ素化合物
34.1	ランタン-アリザリンコンプレキソン吸光光度法
34.2	イオン電極法
34.3	イオンクロマトグラフ法
34.4	流れ分析法
35.	塩化物イオン (Cl ⁻)
35.1	硝酸銀滴定法
35.2	イオン電極法
35.3	イオンクロマトグラフ法
36.	よう化物イオン (I ⁻)
36.1	よう素抽出吸光光度法
36.2	よう素滴定法····································
37.	臭化物イオン (Br ⁻)
37.1	よう素滴定法····································
37.2	イオンクロマトグラフ法
38.	シアン化合物
38.1	前処理
38.2	ピリジン-ピラゾロン吸光光度法
38.3	4-ピリジンカルボン酸-ピラゾロン吸光光度法
38.4	イオン電極法
38.5	流れ分析法
39.	硫化物イオン (S ²⁻)
39.1	メチレンブルー吸光光度法
39.2	よう素滴定法····································
40.	亜硫酸イオン (SO ₃ ²⁻)
40.1	よう素滴定法····································
41.	硫酸イオン (SO ₄ ²⁻)
41.1	クロム酸バリウム吸光光度法
41.2	重量法
41.3	イオンクロマトグラフ法

K 0102:2016 目次

	ページ
42.	アンモニウムイオン (NH ₄ ⁺)
42.1	前処理 (蒸留法) ····································
42.2	インドフェノール青吸光光度法
42.3	中和滴定法
42.4	イオン電極法
42.5	イオンクロマトグラフ法
42.6	流れ分析法····································
43.	亜硝酸イオン (NO ₂ ⁻)及び硝酸イオン(NO ₃ ⁻)
43.1	亜硝酸イオン (NO ₂ ⁻)
43.2	硝酸イオン (NO ₃ ⁻)
44.	有機体窒素
44.1	前処理(ケルダール法)
44.2	インドフェノール青吸光光度法
44.3	中和滴定法
45.	全窒素
45.1	総和法
45.2	紫外線吸光光度法
45.3	硫酸ヒドラジニウム還元法
45.4	銅・カドミウムカラム還元法
45.5	熱分解法
45.6	流れ分析法
46.	りん化合物及び全りん
46.1	りん酸イオン (PO ₄ ³⁻)
46.2	加水分解性りん
46.3	全りん 185
47.	ほう素 (B)
47.1	メチレンブルー吸光光度法
47.2	アゾメチン H 吸光光度法
47.3	ICP 発光分光分析法 193
47.4	ICP 質量分析法 194
48.	ナトリウム (Na)
48.1	フレーム光度法
48.2	フレーム原子吸光法
48.3	イオンクロマトグラフ法
49.	カリウム (K) ···································
49.1	フレーム光度法
49.2	フレーム原子吸光法 ····································
49.3	イオンクロマトグラフ法
50.	カルシウム (Ca)

	~· ~	ージ
50.1	キレート滴定法	202
50.2	フレーム原子吸光法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	205
50.3	ICP 発光分光分析法······	206
50.4	イオンクロマトグラフ法・・・・・	207
51.	マグネシウム (Mg)	207
51.1	キレート滴定法	208
51.2	フレーム原子吸光法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	209
51.3	ICP 発光分光分析法······	210
51.4	イオンクロマトグラフ法	210
52.	銅 (Cu)	210
52.1	ジエチルジチオカルバミド酸吸光光度法	210
52.2	フレーム原子吸光法	212
52.3	電気加熱原子吸光法	215
52.4	ICP 発光分光分析法	216
52.5	ICP 質量分析法	220
53.	亜鉛 (Zn)	223
53.1	フレーム原子吸光法	224
53.2	電気加熱原子吸光法	224
53.3	ICP 発光分光分析法	225
53.4	ICP 質量分析法 ······	225
54.	鉛 (Pb) ······	225
54.1	フレーム原子吸光法	225
54.2	電気加熱原子吸光法	226
54.3	ICP 発光分光分析法	227
54.4	ICP 質量分析法	227
55.	カドミウム (Cd)	227
55.1	フレーム原子吸光法	227
55.2	電気加熱原子吸光法	228
55.3	ICP 発光分光分析法	229
55.4	ICP 質量分析法 ······	229
56.	マンガン (Mn)	229
56.1	過よう素酸吸光光度法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	229
56.2	フレーム原子吸光法	231
56.3	電気加熱原子吸光法	231
56.4	ICP 発光分光分析法	232
56.5	ICP 質量分析法	232
57.	鉄 (Fe)	232
57.1	フェナントロリン吸光光度法	232
57.2	フレーム原子吸光法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	234

K 0102:2016 目次

	^	ージ
57.3	電気加熱原子吸光法	· 235
57.4	ICP 発光分光分析法······	· 236
58.	アルミニウム (Al)	· 236
58.1	キノリノール吸光光度法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 236
58.2	フレーム原子吸光法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· 238
58.3	電気加熱原子吸光法	· 239
58.4	ICP 発光分光分析法	· 240
58.5	ICP 質量分析法······	• 241
59.	ニッケル (Ni)	• 241
59.1	ジメチルグリオキシム吸光光度法・・・・・	• 241
59.2	フレーム原子吸光法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· 243
59.3	ICP 発光分光分析法	• 244
59.4	ICP 質量分析法······	• 244
60.	コバルト (Co)	· 244
60.1	ニトロソ R 塩吸光光度法	· 244
60.2	フレーム原子吸光法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· 245
60.3	ICP 発光分光分析法	· 246
60.4	ICP 質量分析法······	• 246
61.	ひ素 (As)	· 246
61.1	ジエチルジチオカルバミド酸銀吸光光度法	· 246
61.2	水素化物発生原子吸光法	· 249
61.3	水素化物発生 ICP 発光分光分析法	· 253
61.4	ICP 質量分析法······	· 254
62.	アンチモン (Sb)	· 255
62.1	ローダミン B 吸光光度法	· 255
62.2	水素化物発生原子吸光法	· 257
62.3	水素化物発生 ICP 発光分光分析法 ····································	· 259
62.4	ICP 質量分析法······	· 260
63.	ਰੁੱਤੇ (Sn) ·····	· 262
63.1	フェニルフルオロン吸光光度法	· 262
63.2	ケルセチン吸光光度法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· 264
63.3	ICP 発光分光分析法······	· 265
63.4	ICP 質量分析法······	· 266
64.	ビスマス (Bi)	· 266
64.1	よう化物抽出吸光光度法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· 266
64.2	ICP 発光分光分析法······	· 267
64.3	ICP 質量分析法······	· 268
65.	クロム (Cr)	· 268
65.1	全クロム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· 268

	ページ
65.2	クロム (VI) [Cr (VI)]
66.	水銀 (Hg)
66.1	全水銀
66.2	アルキル水銀 (II) 化合物
67.	セレン (Se)
67.1	3,3'-ジアミノベンジジン吸光光度法 287
67.2	水素化合物発生原子吸光法
67.3	水素化合物発生 ICP 発光分光分析法
67.4	ICP 質量分析法 291
68.	モリブデン (Mo)
68.1	チオシアン酸吸光光度法 ···································
68.2	ICP 発光分光分析法 293
68.3	ICP 質量分析法 ····································
69.	タングステン (W)
69.1	チオシアン酸吸光光度法 ···································
69.2	ICP 発光分光分析法 295
69.3	ICP 質量分析法 ····································
70.	バナジウム (V)
70.1	N-ベンゾイル-N-フェニルヒドロキシルアミン吸光光度法
70.2	フレーム原子吸光法 ····································
70.3	電気加熱原子吸光法····································
70.4	ICP 発光分光分析法 ····································
70.5	ICP 質量分析法 ····································
71.	魚類による急性毒性試験
72.	細菌試験
72.1	欠番
72.2	一般細菌
72.3	大腸菌群数
72.4	従属栄養細菌
72.5	全細菌
72.6	レジオネラ
73.	ウラン (U)
73.1	ICP 発光分光分析法 ····································
73.2	ICP 質量分析法 ····································
附属	書1(参考)補足
附属	書 2 (参考)JIS と対応する国際規格との対比表
解	説

日本工業規格

JIS K 0102 : 2016

工場排水試験方法

Testing methods for industrial wastewater

1. 適用範囲 この規格は、工場(事業所を含む。以下、同じ。)から排出される排水の試験方法について 規定する。

- **備考1.** この規格で規定する試験方法のうち,対応国際規格がある場合,その対応国際規格及びその 対応の程度を表す記号を,該当する試験方法ごとに該当箇条に示す。 なお,対応国際規格の技術的内容を変更している箇所は,変更の一覧表に説明を付けて**附**
 - 属書2に示す。
 - 2. 付表1に示す引用規格は、この規格に引用されることによってこの規格の規定の一部を構成 する。これらの引用規格は、その最新版(追補を含む。)を適用する。
- 2. 共通事項 共通事項は,次による。
- a) 通則 化学分析に共通する一般事項は, JIS K 0050 による。
- b) 定義 この規格で用いる主な用語の定義は、JIS K 0101、JIS K 0211 又は JIS K 0215 による。
- c) ガスクロマトグラフ法 ガスクロマトグラフ法に共通する一般事項は, JIS K 0114 による。
- d) 吸光光度法 吸光光度法に共通する一般事項は、JIS K 0115 による。
- e) 誘導結合プラズマ発光分光分析法 誘導結合プラズマ発光分光分析法(以下, ICP 発光分光分析法と いう。)に共通する一般事項は, JIS K 0116 による。
- f) 高周波プラズマ質量分析法 高周波プラズマ質量分析法(以下, ICP 質量分析法という。)に共通する 一般事項は, JIS K 0133 による。
- g) 赤外分光法 赤外分光法に共通する一般事項は, JIS K 0117 による。
- h) 原子吸光法 原子吸光法には、フレーム原子吸光法、電気加熱方式原子吸光法(以下,電気加熱原子 吸光法という。)、その他の原子吸光法がある。これらに共通する一般事項は、JIS K 0121 による。
- i) イオン電極法 イオン電極法に共通する一般事項は, JIS K 0122 による。
- j) イオンクロマトグラフ法 イオンクロマトグラフ法に共通する一般事項は, JIS K 0127 による。
- k) 流れ分析法 流れ分析法に共通する一般事項は, JIS K 0126 による。
- I) 定量範囲 それぞれの試験方法の定量範囲は、最終溶液中の質量(mg, µg 又は ng)で示す。ただし、 原子吸光法、フレーム光度法、ICP 発光分光分析法、ICP 質量分析法、イオンクロマトグラフ法、イ オン電極法、流れ分析法、有機体炭素(TOC)、全酸素消費量(TOD)、溶存酸素及び残留塩素の試験 方法においては、最終溶液中の濃度(mg/L 又はµg/L)で示す。

なお、アルキル水銀(II) 化合物については、試料中の濃度(水銀としての濃度)で示す。

- m) **繰返し精度** 繰返し精度は、それぞれの試験方法で、定量範囲内で使用する標準液を用い、繰返し試 験で求めた変動係数(%)の概略値で示す。
- n) 水 この規格で用いる水は、JIS K 0557 に規定する A1~A4 の水とする。ただし、試験項目中で規定